

市街地舗装補修工事追加施工部における工法提案

(社)静岡県土木施工管理技士会
岡村建設工業株式会社
工務部 見崎 俊夫

1. 工事概要

工 事 名	平成25年度 昭和線舗装補修工事
施 工 箇 所	焼津市 本町二丁目 地内
路 線 名	市道昭和線
発 注 者	焼津市 都市基盤部 道路課
工 事 内 容	舗装工 一式 表面処理工 一式 区画線工 一式 取壊し工 一式



2. はじめに

本工事箇所がある市道昭和線は、焼津市庁舎(本庁)の西側にある市道であり、昔から焼津市の中心商店街路線として、市民から「昭和通り」とう名称で呼ばれ親しまれている道路である。

市道昭和線は、昔はアーケードのついた路線であったが、数年前よりアーケードの撤去等、地元町内会と焼津市が道路整備プロジェクトを進めており、本工事はその最終整備工事として舗装修繕工事を行うものである。

3. 追加施工について

(1) 地元町内会からの要望

本工事は、市道昭和線を3工区で舗装打ち換えを行い、排水性舗装を施工する計画であった。工事契約後の発注者との打合せの中で、1工区と2工区間の交差点部舗装の見栄えが良くないので修繕してほしい旨の要望が、地元町内会からあるという話があった。

そこで、本工事が道路整備プロジェクトの最終工事になるため、今回の工事予算内で施工可能な補修工法を提案してほしいと発注者より相談を受けた。

(2) 追加施工部の工法提案

事前測定の結果、区画線工の数量が大幅に減工になり、また、当初予定していた縁石補修がなくなったため、その分を補修費用に当てることが可能になった。しかし、追加補修の面積は300m²あるので当初設計と同等の舗装打ち換え工法では予算オーバーになってしまう。そこで、今回の交差点部の追加施工については、地元の要望に応えることができ、且つ、限られた予算で施工可能な工法として、表面処理工法のサーフトリート工法を発注者に提案した。この工法は、老化の進んだ舗装や面荒れした舗装のリフレッシュを図る予防的維持工法で、舗装表面の保護(劣化・風化の抑制)が期待できる。

ただし、この工法は舗装表面をコーティングする工法であるため、舗装強度の向上は見込めずまた、現況に亀の子クラックやポットホール等がある場合は施工ができない。現地調査の結果、多少のヘアークラックは発生していたが、施工不可能となるような損傷はなかったため、施工の支障となる軽微な損傷箇所へは、本施工前にクラックシール注入工を施工する対応策を講じた。

<サーフトリート工法の特徴>

- ・不透水性で耐候性が高く、舗装の延命が図られる。
- ・薄層オーバーレイより安価で、経済性に優れている。
- ・常温で施工できるため、環境に優しい工法である。
- ・適度なきめを有しており、すべり抵抗性を改善できる。



(3) 施工手順(クラックシール注入工～サーフトリート工)

<事前準備 クラックシール注入工>

①現場養生



②路面清掃



③プライマー塗布



④注入状況



<サーフトリート工>

①特殊乳剤・骨材攪拌



②表面処理材敷き均し



③表面処理仕上げ



④施工完了



4. 施工に際しての問題点

本工事は年度末工事であり、限られた工期の中で追加施工のための施工日数を確保しなければならなかった。サーフトリート工法は、気温5度以下、路面温度が10度以下の施工は避けなければならないのだが、本施工箇所においては1日あれば施工が可能であり、施工時期が平均気温10度台3月だったため、施工日の確保は容易であると思われた。

実際、工期に遅れを生じさせることなく施工は完了したのだが、施工当日は路面温度が思いのほか上がらず、予定硬化時間の午後3時になっても交通開放ができず、午後5時までずれ込んでしまった。今回の経験を踏まえて、今後は施工時期も考慮した計画を検討する必要があると感じた。

5. まとめ

今回採用したサーフトリート工法による表面処理は、商店街の景観を向上させるために適した工法であった。採用に際しては、担当監督員の理解による判断にも恵まれたと思う。

地元からの要望に応える形で追加工事となった箇所については、商店街の会長や発注者からも好評であり、着手前の地元説明会にて施工内容等について詳しく説明し、ご理解、ご協力いただいた結果だと感じた。

今後の地元とのコミュニケーションを大切に、地域に根ざした工事を担当していきたいと思う。